

株主の皆さまへ

# 株主通信

第 **110** 期

## 事業活動のご報告

2018年4月1日～ 2019年3月31日

### 目次

ごあいさつ .....	1
社長メッセージ .....	2
<b>特集</b> 2022メディパル中期ビジョン .....	4
ESGの取組み .....	7
コーポレート・ガバナンス .....	8
ニュース&トピックス .....	9
連結業績ハイライト .....	10
セグメント別業績 .....	11
会社概要 .....	13
株式の状況 .....	14

株式会社 **メディパルホールディングス**

証券コード7459

ごあいさつ

## 流通価値の創造を通じて 人々の健康と社会の発展に貢献します。

株主の皆さまには、日ごろのご支援に心より感謝申し上げます。ここに株主通信(第110期事業活動のご報告)をお届けいたします。

メディパルグループは、2017年3月期から3か年にわたる「2019メディパル中期ビジョン Change the 卸 next -革新と創造」の取組みにより、「医療と健康、美」の流通で社会に貢献する新しい卸の形をめざした戦略を着々と進めてまいりました。そして、この成果を踏まえ、2020年3月期から始まる「2022メディパル中期ビジョン **Change the 卸 Future** - 未来への変革」を新たに策定いたしました。

人々の安全・安心な暮らしに欠かすことのできない商品を、いつ、いかなるときも安定的に供給するという揺るぎない使命のもと、さらなる企業価値の向上をめざしてまいります。

株主の皆さまには、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長  
渡辺 秀一



### 「2019メディパル中期ビジョン」の振り返り

2019メディパル中期ビジョンの最終年度となる2019年3月期は、重点戦略として掲げた既存事業の革新、新規事業の創造、グループシナジーの発揮に注力しました。これらの結果、中期ビジョンの経営目標である営業利益500億円をほぼ実現することができました。当連結会計年度における経営成績は、売上高3兆1,819億円(前期比1.1%増)、営業利益498億円(前期比12.6%増)、経常利益639億円(前期比11.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益343億円(前期比1.2%減)となりました。売上高、営業利益ならびに経常利益は、過去最高の実績となりました。

### 既存事業の革新

卸機能の基本である物流と営業の革新を通じて、事業基盤の整備を進めました。

医療用医薬品等卸売事業の物流機能については、高機能物流センター(ALC\*)が新たに4か所で稼働し、全国10か所となりました。さらに、2019年4月、関東ALC(埼玉県加須市)が竣工しました。同センターは、労働力不足などの問題に対処するため、ロボットなど最新鋭の物流機器を導入しています。また、厳格な温度管理が求められる希少疾病用医薬品や再生医療等製品などの安定供給を実現するため、超低温を含む全温度帯に対応した物流プラットフォームを構築しています。

### 配当のご案内

#### 2019年3月期 期末配当金 1株当たり20円

当期の配当金は、1株当たり期末配当金を従来予想から2円増額して20円とし、中間配当金18円とあわせて、1株につき38円とさせていただきます。

### 1株当たり年間配当金



営業機能については、MR\*認定試験に合格した社員が約2,300名となり、国内最大規模になりました。この高い専門知識を持った社員をAR\*として任命し、製薬企業と医療機関双方のお役に立つための機能を強化しました。

化粧品・日用品、一般用医薬品卸売事業の物流機能については、昨年8月に大型物流センター(RDC\*)が新潟県で稼働しました。同センターではロボットやAI(人工知能)を活用し、自動化推進による生産性向上を実現しています。

営業機能については、小売業の店舗運営効率化に役立つ提案を行うなどストアソリューション機能の強化に努めました。

### 新規事業の創造

医療用医薬品等卸売事業において、ALCの高機能な

物流インフラやARのような専門知識を持つ人材を活用して、環境変化に左右されない新たなビジネスモデルの創造に取り組んでいます。また、ARによる学術情報の提供をはじめ、PMS\*、PFM®\*などへの積極的な投資と育成を進めており、業績への貢献度が着実に増えています。いずれも当社グループ固有の取組みであり、お客様や製薬企業のニーズが拡大しています。

### グループシナジーの発揮

重点成長分野として位置づけている医療機器、動物用医薬品、食品加工原材料などの卸売事業の業績貢献度が増えています。グループ各社のノウハウを活かしてシナジー効果を発揮し、お取引先様のお役に立てる付加価値サービスの提供、事業規模の拡大、効率化による生産性の向上を進めました。

### メディカルDictionary

ALC	: Area Logistics Center	医療用医薬品や医療材料などを扱う高機能物流センター。主に、調剤薬局、病院、診療所に商品を供給
AR	: Assist Representatives	MR認定試験に合格したMS(医薬品卸売業の営業担当者)や薬剤師などに付与した社内呼称
FLC	: Front Logistics Center	ALCと連携して、顧客に近い場所で商品の安定供給を支える営業兼物流拠点
MR	: Medical Representatives	製薬企業の医薬情報担当者
PFM®	: Project Finance & Marketing	医療用医薬品の開発投資を通じて、製薬企業とともにリスクとリターンを共有するビジネスモデル
PMS	: Post Marketing Surveillance	医療用医薬品を発売した企業が、製品の品質、有効性、安全性を確認するために法的に義務づけられた調査
RDC	: Regional Distribution Center	化粧品・日用品、一般用医薬品などを扱う大型物流センター。小売業に商品を供給

2022メディカル中期ビジョン *Change the 卸 Future* — 未来への変革

当社グループは、2020年3月期から2022年3月期までの3年間の新たな経営ビジョンとして「2022メディカル中期ビジョン *Change the 卸 Future* — 未来への変革」を策定いたしました。

当社グループを取り巻く事業環境は、少子高齢化や人口減少が進むことによって、社会保障費の増大と労働力不足がさらに深刻さを増すことが予測されています。また、第4次産業革命ともいわれるデジタル技術等の発達は、新たなビジネスモデルを生み出すとともに、消費者のライフスタイルや購買行動にも大きな変化をもたらすことが予想されます。

このような中、当社グループは次なる3年間の取組みとして、既存事業のさらなる革新を進めるとともに、新規事業は「創造」から「拡大」へとステージアップいたします。同時に、様々な分野の企業とのパートナーシップを通じて、社会と顧客に貢献する新たな枠組みを構築し、収益基盤のよりいっそうの拡大と、将来にわたる持続的成長を実現してまいります。

中期ビジョン策定の背景

社会環境の変化

少子高齢化・人口減少

- 社会保障費の増大
- 労働力不足
- 人生100年時代

デジタル技術の発達

- AI、ロボット等の活用
- デジタルトランスフォーメーション
- 消費行動の変化

医療・健康の分野

効率化・最適化

- 医療費の抑制、薬価の頻回改定
- 地域医療の充実
- 予防医療の推進、健康寿命の延伸

高度化・多様化

- 医療技術の進歩・デジタル技術の導入
- 再生医療の拡大、希少疾病薬の開発
- オーダーメイド医療の拡大

様々な企業とのパートナーシップにより、  
社会の課題解決に取り組んでいく

2022メディアパル中期ビジョン *Change the 卸 Future* — 未来への変革

基本方針

# *Change the 卸 Future*

## 未来への変革

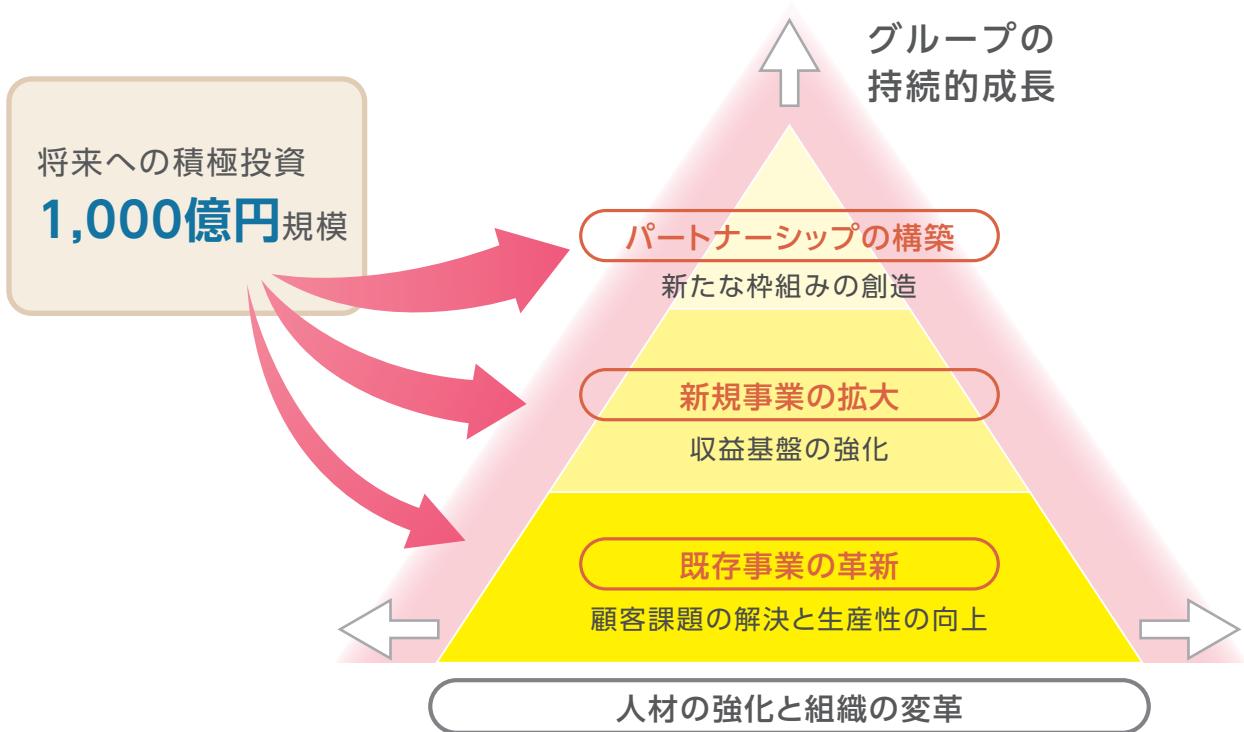
社会と顧客に貢献する新たな枠組みを構築し、  
収益基盤の拡大と持続的な成長を実現します。

経営目標・計画

	2019年3月期実績	3年後の目標または方針
経常利益	639 億円	720 億円
新規事業利益*	46 億円	100 億円
配当性向	24.7 %	30%を目安に安定配当
成長投資	3年間で1,000 億円規模	

\*当社グループの持つ全国のインフラおよび人材を活用して新たに取り組んでいる事業の売上総利益。関連商品の販売による利益を含めています。

グループの全体成長イメージ



新中期ビジョンの説明会動画をご覧ください。

こちらのQRコードからアクセスしてください。

[https://www.medipal.co.jp/ir/strategy/vision/event/pctab\\_20190516\\_2.html](https://www.medipal.co.jp/ir/strategy/vision/event/pctab_20190516_2.html)



※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



## ESGの取組み

当社グループは、事業活動そのものが持続可能な経済社会の実現に貢献するものであると考えています。流通の効率化による環境負荷の軽減や、平時・有事を問わない安全・安心な商品供給、希少疾病用医薬品への開発投資、多様な人材の活用など、社会的な課題の解決に取り組んでいます。さらに、効率的かつ有効なガバナンス体制のもと、経営の透明性と健全性を確保しながら、企業価値の最大化に努めています。

### 事業活動そのものが持続可能な経済社会の実現に貢献



2019年3月11日、毎日新聞、日本経済新聞、北海道新聞、西日本新聞、読売新聞、朝日新聞の6紙に企業広告を掲載しました。

#### Environment

環境

- 流通全体の効率化による環境負荷の軽減

#### Social

社会

- 安全・安心な商品供給
- 希少疾病用医薬品への開発投資
- 多様な人材の活躍

#### Governance

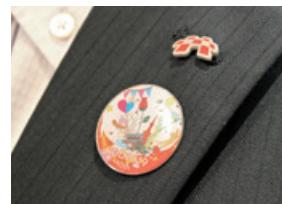
企業統治

- 効率的かつ有効なガバナンス体制の構築

#### 希少疾病への取組み

#### 希少・難治性疾患の患者さんを支援

希少・難治性疾患の病気に苦しむ人は世界中にいます。それにもかかわらず、患者数が少なかったり、病気のメカニズムが複雑なため、治療薬・診断方法の研究開発がほとんど進んでいない例もあります。Rare Disease Day (世界希少・難治性疾患の日、以下RDD)は、より良い診断や治療による希少・難治性疾患の患者さんの生活の質の向上をめざして、スウェーデンで2008年から始まった活動です。メディパルグループはスポンサー企業としてその活動を支援しています。また、RDDがある2月に、オフィシャルバッジを着用しました。



### 企業経営の知見を活かし求心力と遠心力を バランスさせた企業価値向上に貢献したい

社外取締役 **浅野 敏雄**

経歴

1975年旭化成株式会社入社、2010年旭化成ファーマ株式会社の代表取締役社長兼社長執行役員に就任後、2014年旭化成株式会社の代表取締役社長に就任。経営者としての豊富な経験と幅広い見識をもとに、客観的な助言を行っている。



#### 時には背中を押す存在に

当社は多様性に富む集団ですが、事業会社各社への権限委譲(遠心力)とグループガバナンス(求心力)を適切にバランスさせて持続的成長につなげています。現在は海外への事業投資も積極的に行っており、さらに遠心力を働かせて事業の幅を広げています。ただ、一般的に遠心力を効かせれば効かせるほど、グループガバナンスのリスクも高まってきます。そうした中で、社外取締役の第一の役割である、社内のしがらみに縛られない独立した立場で、経営の監督という機能をしっかりと果たしたいと考えています。もっとも、私も企業経営者として、新規事業の育成などさまざまな課題への対応に悪戦苦闘してきた経験者ですから、そこで学んだことを活かし、時には経営陣の背中を押す存在となって、当社の企業価値向上に貢献したいと思っています。

#### 倫理観が企業価値に大きく影響する

当社の長期的な企業価値を考えたとき、その根幹には“倫理観”があると私は非常に強く感じています。当社は人々の生命と暮らしを支えている企業ですから、倫理観の欠如は致命的で、それで問題を起せば10年、いやそれ以上の利益に相当するものを一瞬にして失う可能性があります。ですから、医療費抑制策が強まろうと倫理観なき利益追求はありえません。さらにメディカルグループにおける“倫理観”は、お得意様やお取引先様のお役に立ちたいという使命感と結びついて、目に見えないところで当社の価値を生み出しています。リスク管理面だけでなく、成長の原動

力にもなっています。まさに求心力と表裏一体であり、平日頃から、あらゆる活動で“倫理観”に対する教育が繰り返され、経営陣と現場との対話も頻繁に行われています。その徹底ぶりは、当社のグループガバナンスとして、非常に高く評価できる部分ではないかと思っていますし、遠心力によってそこが一番大事な部分が希薄化してしまわないよう心がけています。

#### 取締役会の実効性は高いレベルで確保

当社では、経営トップがリーダーシップを発揮し、成長投資を加速しています。しかし、当社の取締役会では、私たちを含め社外の声に率先して耳を傾けており、忌憚のない活発な議論の後、決定されています。また、重要案件については、私たち社外の者への事前説明が懇切丁寧になされています。私は、その議案が出された背景、そして、社内ですっかり議論されているかという点に特に注意を払って確認し、取締役会に臨むようにしています。社外の目を活かし、透明・公正かつ果断な意思決定を行う仕組みとしてのガバナンスの実効性は、高いレベルで確保されているものと感じています。

今後の課題として、サクセッション・プラン(後継者育成計画)や指名・報酬委員会などが考えられますが、横並び発想や形式的な導入では意味がありません。当社は求心力と遠心力のバランスで持続的成長を図っており、そうした当社の組織運営に適したかたちでの採り入れ方を議論していくべきであると思っています。

2018.11

### カラダメディカを合併会社化

(株)エムティーアイの子会社であり、ヘルスケアに関するコンテンツ配信サービスを行う(株)カラダメディカの株式を取得いたしました。これにより、新たにオンライン診療サービス\*の普及・促進をめざしていきます。診察の予約からビデオ通信による診察、決済、薬・処方箋の配送までの一連の流れをICTによってサポートし、医療機関および患者さん双方の利便性を追求していきます。

# CARADA medica

※オンラインで医療行為を行うために必要なシステムを提供するものであり、医療行為を行うものではありません。

2019.2

### 医療ITサービス事業を展開する リーズンホワイと資本提携

地域医療連携の支援や患者さんへのセカンドオピニオン提供などの医療ITサービス事業を展開しているリーズンホワイ(株)と資本提携いたしました。

リーズンホワイが有するビッグデータと当社が収集した医療関連情報を結びつけた解析データを医療機関や製薬企業へ提供します。この解析データを活用し、当社は「医療の偏り」や「医師と患者さんのミスマッチ」を解消し、潜在患者の早期発見や地域医療の最適化をめざしていきます。



Oct.  
2018

Nov.

Dec.

Jan.  
2019

Feb.

Mar.

2019.1

### 医療従事者に有益な情報を提供する ポータルサイトの構築

メディカル・データ・ビジョン(MDV)(株)の子会社であり、インターネットを利用した医療情報提供サービスを行う(株)Doctorbookの株式を取得いたしました。これにより、当社グループが有する全国規模の医療機関ネットワークと、MDVのデータ利活用の知見や医療コンテンツの制作ノウハウを融合し、医療情報ポータルサイト「Clinical Cloud by MEDIPAL」を構築、医療従事者に対して有益な情報の提供を行ってまいります。

# Doctorbook

2019.3

### 再生医療分野における 取扱製品の拡充をめざして

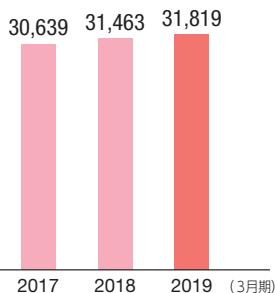
医療ニーズの高い疾患領域において、新規性の高い治療薬を開発しているベルギーの再生医療ベンチャー、プロメセラ社の日本における事業化を支援するため、第三者割当増資を引き受けました。今後は両社の知識・経験・ノウハウを持ち寄り、再生医療における最適なバリューチェーンの構築に取り組んでいきます。



# 連結業績ハイライト (2019年3月期)

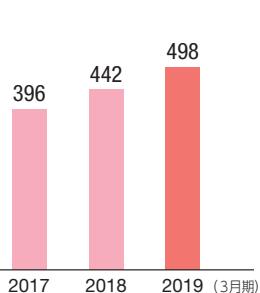
## 売上高

(単位: 億円)



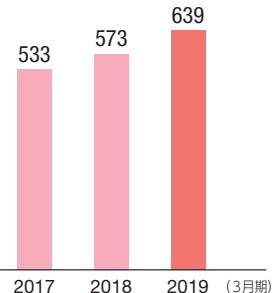
## 営業利益

(単位: 億円)



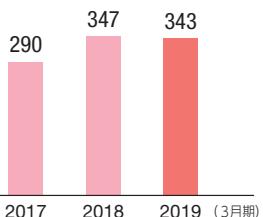
## 経常利益

(単位: 億円)



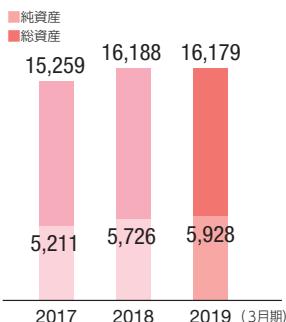
## 親会社株主に帰属する 当期純利益

(単位: 億円)



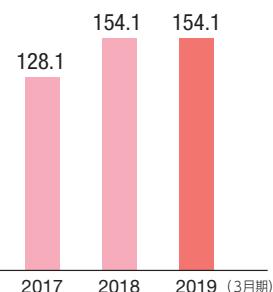
## 純資産／総資産

(単位: 億円)



## 1株当たり当期純利益 (EPS)

(単位: 円)



## 売上高

3兆1,819億円

## 営業利益

498億円

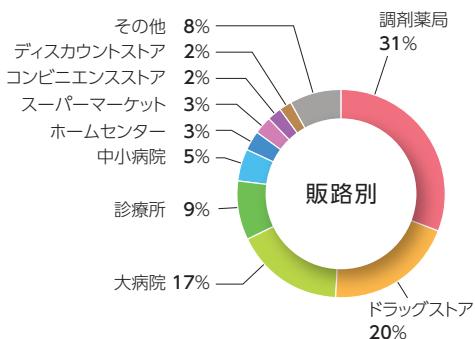
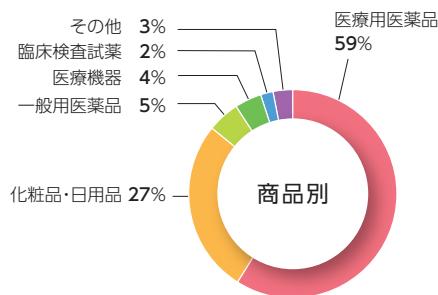
## 経常利益

639億円

## 親会社株主に帰属する 当期純利益

343億円

## 売上高の内訳



最新の  
決算説明会動画  
をご覧ください。

こちらのQRコードから  
アクセスしてください。

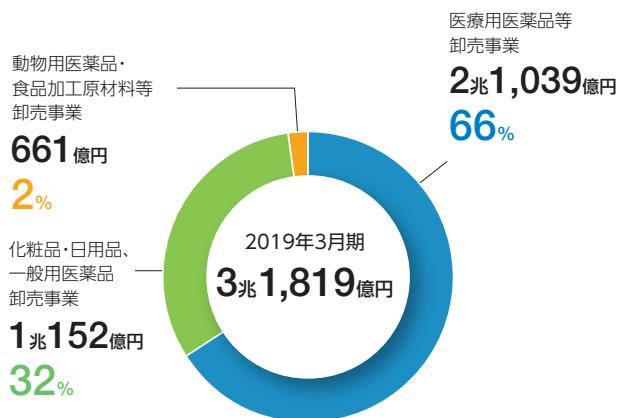


[https://www.medipal.co.jp/ir/event/pctab\\_20190516.html](https://www.medipal.co.jp/ir/event/pctab_20190516.html)

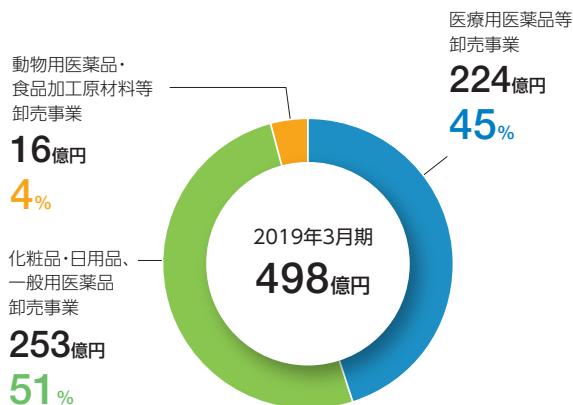
※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

# セグメント別業績 (2019年3月期)

## 売上高構成比



## 営業利益構成比

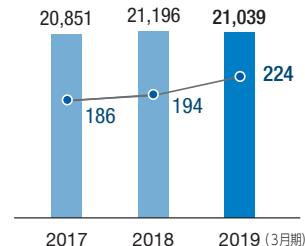


※連結消去の数字を除いて表示しているため、合計金額は一致しません。

## 医療用医薬品等卸売事業



(単位: 億円)



2018年4月1日に実施された薬価引き下げや後発医薬品の使用促進の一方で、抗がん剤やC型肝炎治療薬などの新薬が伸ばしたことにより、前年並みで推移いたしました。このような環境の中、製薬企業から患者さんに至るまでのサプライチェーン全体の最適化・効率化を図るため、卸機能を最大限に発揮するためのさまざまな取組みを行いました。

- 高機能かつ災害対策を施したALC・FLC\*の全国展開。2019年3月期は「南九州ALC」が新たに稼働。
- 超低温を含む全温度帯に対応した物流プラットフォームの構築。
- AR、PMS、PFM®などの新規事業が収益に貢献。

- (株)メディセオ
- (株)アステック
- (株)エバルス
- (株)MVC
- (株)アトル
- メディエ (株)
- SPLine (株)
- (株)エム・アイ・シー
- (株)MMコーポレーション
- (株)トリム

売上高

2兆1,039億円 前期比 0.7%減

営業利益

224億円 前期比 15.6%増

## 化粧品・日用品、一般用医薬品卸売事業



■ 通期売上高 ● 通期営業利益

自然災害や気候要因による下振れや、中国電子商取引法施行に伴うインバウンド消費における代購ビジネスの鎮静化といった環境の変化はあったものの、女性の社会進出など、生活スタイルの変化にあわせた付加価値商品の好調などにより、概ね順調に推移いたしました。このような環境の中、「顧客満足の最大化と流通コストの最小化」をコーポレートスローガンに、人手不足に対応するため、生産性向上および出荷能力拡大に向けた積極的な投資を行い、サプライチェーン全体の最適化・効率化をめざした取組みを推進しました。

- 将来の労働人口の減少を見据え、AI・ロボット等を活用した新物流モデルによる飛躍的な生産性向上と信越エリアの出荷能力増強を目的とした「RDC新潟」の稼働。
- 首都圏での出荷能力増強と新物流モデル展開を目的とした「RDC埼玉」(2019年11月稼働予定)の建設を順調に推進。

● (株)PALTAC

売上高

1兆152億円 前期比 5.0%増

営業利益

253億円 前期比 10.4%増

## 動物用医薬品・食品加工原材料等卸売事業



■ 通期売上高 ● 通期営業利益

動物用医薬品・食品加工原材料等卸売事業の販売は順調に推移しました。

## 動物用医薬品

- 畜産向け市場においてワクチンや飼料添加物を積極的に販売。
- コンパニオンアニマル\*向け市場において独自の動物病院向けWEB発注情報システム「MP+ (エムピープラス)」の利用拡大や専売するスキンケア商品の販売を推進。

\*コンパニオンアニマルとは、伴侶動物とも表現され、日常生活の中で人とより密接な関係を保つような動物を指しています。

## 食品加工原材料

- 提案営業の推進により大手顧客との取引が拡大。
- 関西エリアおよび首都圏での取引増大。

● MPアグロ(株)

● メディパルフーズ(株)

売上高

661億円 前期比 4.9%増

営業利益

16億円 前期比 6.3%増

# 会社概要 (2019年3月31日現在)

商号	株式会社メディパルホールディングス	
本社所在地	〒104 - 8461 東京都中央区八重洲二丁目7番15号	
資本金	223億98百万円	
創業	1898(明治31)年10月8日	
設立	1923(大正12)年5月6日	
従業員数	13,868名(連結ベース)	
取締役*1	代表取締役社長	渡辺 秀一
	取締役副社長	長福 恭弘
	専務取締役	依田 俊英
	常務取締役	左近 祐史
	取締役	長谷川 卓郎
	取締役	渡辺 紳二郎
	取締役	糟谷 誠一
	社外取締役	加々美 光子
	社外取締役	浅野 敏雄
	社外取締役	昌子 久仁子
監査役*1	常勤監査役	平澤 利夫
	常勤監査役	神田 茂
	社外監査役	北川 哲雄
	社外監査役	豊田 友康
	社外監査役	佐貫 葉子
執行役員*2	主席執行役員	木村 友彦
	主席執行役員	鎗水 博司
	上席執行役員	川原 正範
	執行役員	京極 光弘
	執行役員	柳井 宣人
	執行役員	筒井 久
	執行役員	柏木 整
	執行役員	橋田 一夫
	執行役員	山崎 照弘
	執行役員	平賀 久夫

※1 2019年6月26日現在

※2 2019年7月1日現在

## グループ会社

### 医療用医薬品等卸売事業

株式会社メディセオ(東京都中央区)  
株式会社エパルス(広島市中区)  
株式会社アトル(福岡市東区)  
SPLine株式会社(東京都中央区)  
株式会社MMコーポレーション(東京都文京区)  
株式会社アステック(茨城県つくば市)  
株式会社MVC(福岡市東区)  
メディエ株式会社(東京都中央区)  
株式会社エム・アイ・シー(東京都文京区)  
株式会社トリム(神戸市中央区)  
四国薬業株式会社(愛媛県松山市)\*3  
株式会社よんやく(愛媛県松山市)\*3  
中澤氏家薬業株式会社(高知県南国市)\*3  
東七株式会社(長崎県佐世保市)\*3

### 化粧品・日用品、一般用医薬品卸売事業

株式会社PALTAC(大阪市中央区)

### 動物用医薬品・食品加工原材料等卸売事業

MPアグロ株式会社(北海道北広島市)  
メディパルフーズ株式会社(札幌市中央区)

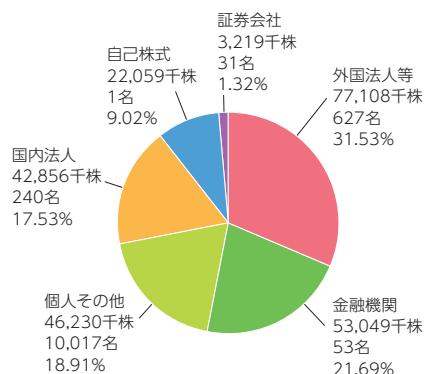
\*3 資本・業務提携会社

# 株式の状況 (2019年3月31日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数	900,000,000株
発行済株式総数	244,524,496株
株主数	10,969名

## 所有者別分布状況 (持株比率)

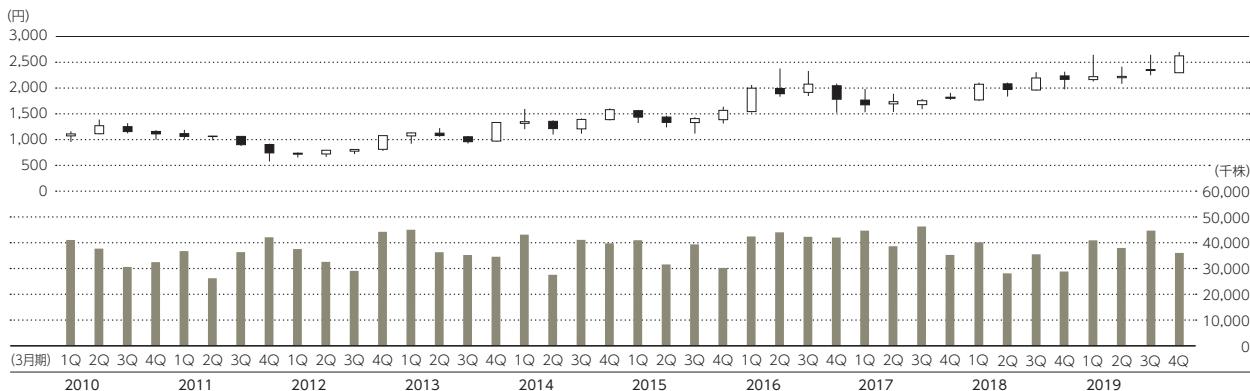


## 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
武田薬品工業株式会社	11,400	5.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	9,669	4.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	8,282	3.72
MPグループメディセオ従業員持株会	7,111	3.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・エーザイ株式会社退職給付信託口)	5,845	2.63
小林製薬株式会社	5,074	2.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	4,169	1.87
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 第一三共 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	3,274	1.47
大日本住友製薬株式会社	3,149	1.42
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	2,933	1.32

- (注) 1. 当社は自己株式22,059千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。  
 2. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。  
 3. 持株比率は小数点第3位を四捨五入して表示しております。

## 株価及び株式売買高の推移 (四半期定)



# 株主メモ (2019年3月31日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会基準日 毎年3月31日 期末配当基準日 毎年3月31日 中間配当基準日 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	7459
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168 - 0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120 - 782 - 031 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(インターネット ホームページ照会先)	<a href="https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>

## マイナンバー制度に関する 手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。

## 株式関係事務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書に株主さまのマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。このため、株主さまからお取引のある証券会社等へ、以下のとおりマイナンバーを届出いただくが必要でございます。

## 証券会社の口座で株式を管理されている株主さま

お取引の証券会社までお問い合わせください。

## 証券会社とのお取引がない株主さま

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (左記の電話照会先)までお問い合わせください。

## 株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、上記の電話照会先にご連絡ください。

## 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

## 見直しに関する注意事項

この株主通信に記載されている当社グループの計画、見直し、戦略などは、経済の動向、業界の動向、市場の競争状況などの影響を受けます。そのため、実際の業績はこれら見直しと異なる可能性がありますことをご承知おきください。